

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	1
1. 総合科学部	3
2. 総合科学教育部	5
3. 医学部	7
4. 医科学教育部	10
5. 栄養生命科学教育部	12
6. 保健科学教育部	14
7. 歯学部	16
8. 口腔科学教育部	18
9. 薬学部	21
10. 薬科学教育部	23
11. 理工学部	25
12. 生物資源産業学部	28
13. 先端技術科学教育部	31

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況		教育成果の状況	
	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
総合科学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
総合科学教育部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医科学教育部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
栄養生命科学教育部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
保健科学教育部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
歯学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
口腔科学教育部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
薬学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
薬科学教育部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
理工学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
生物資源産業学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
先端技術科学教育部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 総合科学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 4)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 過疎地域における野生動物被害が問題化する中、学部授業を契機として狩猟を通じた問題解決に関わる取組が進められており、そこから院生・学部生がサークルを立ち上げ、その活動を継続的な取組として実施している。その活動の一環として展開されているジビエ製品の創作については、一般社団法人大学支援機構 (Organization For People With Universities) が運営するサイト「Otsucle[おつくる]」において、「鳥獣害対策のために学生狩猟サークルが狩猟ビジネスをおこす！大学ブランドのジビエ商品開発」とのタイトルでクラウドファンディングに参加し、901 千円（目標額 500 千円）の支援を受け取組を実施した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

2. 総合科学教育部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 6)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 6)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 中国語と日本語のバイリンガル講師による「日本語サポートルーム」を開設し、大学院在籍の外国人（中国人）留学生の論文執筆（日本語によるアカデミック・ライティング）を支援している。
- 博士前期課程地域科学専攻の共通科目である「プロジェクト研究Ⅰ」では、多様な領域の学生が6つのテーマのプロジェクトチームを編成し、領域を越えた複数教員が指導助言を行いながら、各テーマ（LED アートまちづくり、留学生による地域イベント参加、モラエス地域研究、最短観光ルートのシミュレーションプログラム、高齢者の健康運動支援、水道水の成分評価など）に対して地域の行政や関係団体との連携からプロジェクトを遂行して結果を発表している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

3. 医学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 8)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 9)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 医学科では、平成 31 年度より、肉眼観察による解剖実習に加え、ご遺体を全て CT 撮影するとともに、その CT 画像と実際の人体の器官・組織を比較するという取組を開始した。
- 医科栄養学科では、COC+事業「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」の一環にて全学的に推進している「寺子屋式インターンシップ」の科目として、4 年次学生を対象とした「臨地実習」（「給食経営管理論実習」と「公衆栄養学実習」）を実施している。
- すべての学生に「遺伝子組み換え講習会」や「実験動物に関する教育訓練」を受けさせているほか、臨床実習の学生にガラスバッヂを携帯させ、放射線被爆線量を測定していることによって、実習環境の安全及び衛生を確保し、遺伝子組み換えや実験動物、放射線障害防止についての教育を行っている。
- 徳島大学医学部と、モンゴル国立医科大学（以下「MNUMS」）は平成 17 年の学術交流協定を締結して以来、多くの留学生を受け入れている。これまでの両校の交流が基となり平成 28 年度より「日本モンゴル教育病院運営管理及び医療サービス提供の体制確立プロジェクト」（JICA 委託事業）を開始し、令和元年 10 月にモンゴル初の大学附属病院となる「日本モンゴル教育病院」が開院された。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 医学部において、平成 30 年度に卒業生雇用主アンケートを実施した。医学科卒業生に関しては、「職務上の指示を理解する能力」、「指示した仕事を遂行する能力」について、肯定的な回答をした雇用主がほぼ 100%であった。

4. 医科学教育部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 11)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 11)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

5. 栄養生命科学教育部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 13)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 13)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 多職種連携教育を実施するがん専門栄養士コースは、多くのがん病態栄養専門管理栄養士が修了しており、外部評価において指導的専門管理栄養士の育成を担う博士課程のモデルコースとして極めて高く評価されている。
- 蔵本地区5教育部において国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム「モンゴルと ASEAN 諸国における国際高度医療人育成プログラム」が採択された。
- 蔵本地区5教育部では、21世紀における世界的課題である人間環境、栄養、保健、感染予防並びに医薬の分野における諸問題に対応できるように、世界の各国で活躍できる教育・研究者及び行政の専門家を育成することを目的として、「統合医療学際教育英語プログラム」を開設している。外国人留学生は、入学から学位取得まで、英語のみで修了できるようカリキュラムが編成されている。医学、栄養学、保健学、歯学、薬学に関する講義を総合的に包括して英語で行っており、日本人学生も履修できる。実習、セミナー等も英語で行っており、WHO、JICA等の国際的な場で活躍できる人材を養成するとともに、英語で討論する力を養っている。
- 臨床栄養学コース及び臨床腫瘍栄養学コースでは、臨床栄養管理学実習、腫瘍栄養管理学実習、がん栄養学実習の各科目において、徳島大学病院及び地域の関連病院において栄養管理に関する実務実習を行っている。また、臨床腫瘍栄養学コースでは、腫瘍栄養管理学演習及びがん栄養学演習において、徳島大学病院のキャンサーボードに参加させている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

6. 保健科学教育部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 15)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 15)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 2泊3日で大学院生と指導教員が英語で研究発表と討論を行う Tokushima Bioscience Retreat を毎年開催し、平成 28 年度からは蔵本地区の医療系教育部だけでなく常三島地区の先端技術科学教育部からも大学院生、留学生、教員が参加して、全学的取組に発展させ、参加者アンケートで高い評価を得た。保健科学教育部では 53 名の学生・教員が参加するとともに、平成 27 年度に世話人を担当することでこの取組の発展に貢献している。
- 蔵本地区 5 教育部において国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム「モンゴルと ASEAN 諸国における国際高度医療人育成プログラム」において、他の医療系教育部とも連携して英語による共通科目を開設するとともに、専門科目での授業や研究指導を行っている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

7. 歯学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 17)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 17)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 21 年から医学、歯学、薬学部 1 年生合同による IPE ワークショップを実施している。また、7 年前からは学生の一部有志を募って高学年の IPE の実施を試行していたが、平成 31 年度から 3 学部の「学部連携 PBL-チュートリアル」が始まったことに合わせ、正規のカリキュラムに導入、高学年における多職種連携教育（IPE）を充実させた。
- 高大接続の実現の一環として、平成 31 年度より高等学校の生徒を Junior-Student Lab に受入れ、教員の指導の下、研究を体験できる場を提供している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 歯科衛生士国家試験の合格率は口腔保健学科が設立されて以来ほぼ 100%を維持し、また社会福祉士国家試験の合格率もこの 5 年間全国 2 位以内を維持しており、その高い教育水準は全国的に評価されている。

8. 口腔科学教育部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 19)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 20)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 教育課程の体系性を可視化したカリキュラム・マップに、科目の分野・レベル・実施形式（講義・演習等）等を表す科目ナンバリングを併記することでカリキュラム全体を俯瞰できるようにし、それをウェブサイトにて学内外に公表している。さらに、教育課程の体系化・可視化ならびに改善のための取組として、カリキュラム・チェックリストを作成し学位授与方針が示す資質・能力を得るために学生の学修内容の確認を行うなどにより、体系的な学修体制構築を進めている。
- 医療系教育部が共同して、6つの医療系クラスター（「骨とCa」「ストレスと栄養」「感染・免疫」「肥満・糖尿病」「脳科学」「心・血管」）を構築し、蔵本地区全教育部横断的な指導体制の下、それぞれのクラスターの専門性を活かした教育指導を通じて、大学院生のニーズに応えた効果的な教育を行っている。毎年クラスターごとに学生の所属教育部を越えて議論を交わし刺激し合う場としてのミニトリートを実施し、参加者の高い評価を得ている。
- 中間発表会（専攻公開ゼミ）にルーブリック評価を導入し、学生と教員が共通の認識を持つことを可能にし、公正、厳格かつ客観的な評価を実施している。
- 大学院生の研究活動を評価するアカデミックレコードを制度化し、学生から提出された記録を集計・分析して課題を抽出し、教育の改善に活かしている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 学生の受賞数は第2期中期目標期間の年平均 2.2 件から第3期中期目標期間は年平均 7.5 件と増加している。特に平成 30 年度には先端歯学国際研究ネットワーク・先端歯学スクール 2018 最優秀賞等を受賞している。

9. 薬学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 22)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 22)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 30 年度入学者より、一括募集から学科別募集へ変更を行うとともに、学部 1 年次から各学科の目指す「インタラクティブ YAKUGAKUJIN」を育成するためのカリキュラムを再構築した。薬学科では医療現場で医療チームにおいて医師・看護師等の多職種と連携・対応し得る能力を、創製薬科学科では創薬研究者として製薬企業・薬事行政・教育機関等において連携・対応し得る能力を、それぞれ醸成するためのカリキュラムとしており、特に創製薬科学科では研究室配属を従来の 3 年次後期から 3 年次前期に前倒しすることで、早期から研究者志向を持つ人材育成を行っている。
- 独自の語学学習への取組として、米国ノースカロライナ大学（UNC）薬学部と共同で、遠隔会議システムを用いた日米の学生同士による症例検討会を実施している。遠隔会議システムによるリアルタイムでのディスカッションにより、臨床領域における英語での専門的なコミュニケーション能力の向上を図るとともに、日米両国の医療制度等の違いに基づいて治療方針を討議することで、グローバルな観点に基づいた臨床能力の醸成を図っている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

10. 薬科学教育部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況	24)
(分析項目Ⅱ 教育成果の状況	24)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 薬科学教育部独自のシナリオを用いた研究倫理プログラムワークショップを開催している。ワークショップは座学ではなく、少人数グループのディスカッション形式を取り入れるほか、外国人留学生にも対応（留学生のグループを設け、英語の資料を活用）したものとなっている。
- 蔵本地区の医療系教育部が共同して、6つの医療系クラスター（「骨と Ca」「ストレスと栄養」「感染・免疫」「肥満・糖尿病」「脳科学」「心・血管」）を構築し、蔵本地区全教育部横断的な指導体制の下、それぞれのクラスターの専門性を活かした教育指導を通じて、大学院生のニーズに応えた効果的な教育を行っている。毎年クラスターごとに学生の所属教育部を越えて議論を交わし刺激し合う場としてのミニリトリートを実施し、参加者の高い評価を得ている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

11. 理工学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 26)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 27)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 徳島大学大学院先端技術科学教育部への進学を希望する学生について、3年前期終了時までの成績（GPA）状況により、6年一貫カリキュラムに移行することを認めている。学部での基盤教育をいち早く応用に結びつけることができるとともに、卒業研究から修士論文研究までの一環実施による効果的な研究・教育体制を実現、また、学部にて在籍しながら大学院の先取り科目の受講が可能となるため、大学院在籍時に自由な時間が確保でき、研究、留学、インターンシップ等、選択肢の幅が広がる。なお、平成31年度に初めて選抜を実施し、理工学部全体で32%の学生が当該カリキュラムを志望し、179名を承認した。
- 職業を有している学生を対象に、標準修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを認め、その在学期間中の授業料の負担を軽減する長期履修制度を導入している。平成28年度に2名、平成29年度から平成31年度まで各年度に1名が当該制度による修学が認められている。
- 大学入学後の学生に対して、競争意識を継続して維持し、学びへの動機を保持することを目的として、1年次終了時に入学後の成績と学生の志望に基づいて履修コース・系を決定する経過選択制を導入している。入学時に仮配属されたコースにおける1年間の学修を通して自身の適性を見直し、希望により、2年進級時に本配属を変更できる仕組みであり、一人一人の学生にマッチしたコース配属が実現できるよう、クラス担任や履修相談室がコース配属の相談に応じている。
- 理工学部では、より専門知識を修得するために、自分の研究分野だけでなく、他コースの専任教員による指導を希望する学生について、所属コース・系と当該関係教員による複数指導体制、分野横断型の卒業研究を履修することができる体制を整備している。学部教育の段階で、高度専門職人材を養成するための教育体制であり、令和2年度に設置した大学院へのシームレスにつながる制度となっている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

12. 生物資源産業学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 29)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 30)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 経済・経営分野の充実は、生物資源産業学部の特徴の一つであり、「経済・経営科目」として 11 科目 20 単位を開講し、そのうち 16 単位が必修科目である。さらに「起業体験実習」「アグリビジネス起業論」「商品開発プロジェクト演習」は起業を具体的に視野に入れた科目である。これらに加えて、地域の企業等での 15 日間のインターンシップを必修として課しており、このような実践性の高いカリキュラムを通じて産業創出の担い手となる人材の育成を図っている。
- 教員のほとんどがインターンシップを担当していることも生物資源産業学部の特徴であり（専任教員の 84%）、受け入れ先の数の増加と内容の充実を目指すため、各学期に教員が官公庁・企業等への訪問を実施し、受け入れの要請や内容の吟味を行っている。インターンシップは、課題解決型と自由応募型に分かれ、課題解決型では毎年報告会を実施しており、参加者は強い責任感を持ってインターンシップに取り組んでいる。また、報告会は対象学年以外にも広く参加できるようにしているため、学生の参加意欲を引き出す方法の一環となっている。
- 「鉄は熱いうちに打て」（SIH：Strike while the Iron is Hot）の精神に則り、反転授業、グループワーク、学修ポートフォリオ、専門領域早期体験などによるリフレクションを基盤としたアクティブ・ラーニングの体験を通して、学生と教員が共に学び合い成長する科目「SIH 道場－アクティブ・ラーニング入門－」を実施している。
- 生物資源産業学部専門科目のアクティブ・ラーニング導入率は、80%前後で推移している。毎年シラバス作成時にアクティブ・ラーニングを導入した授業計画実施依頼を行っており、導入率のさらなる向上を図っている。また、生物資源産業学部ではラーニング・ポートフォリオを導入し、学部 FD 集会を通じてその有効な活用を教員に促しており、教育の質の向上に努めている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 令和元年度に卒業年次学生を対象に実施したアンケートの結果に基づいて、教育目的の達成度を評価した。ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力の達成度はいずれも9割以上が肯定的回答であり、教育目的が十分に達成できているといえる。一方、研究、教育、交流活動についての満足度は、生物資源産業学部の特徴1に関連するアンケート項目「学習意欲が湧く授業が多かった」「語学教育に満足している」「専門教育に満足している」ではいずれも肯定的回答が9割以上であった。

13. 先端技術科学教育部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 32)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 33)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 企業等における実践的な環境の下で、大学と企業による共同課題、企業等における課題等の探求活動、技術経営の実践等を体験することにより、研究や企業において中核的役割を果たす人材を育成することを目的とした授業（「長期インターンシップ（M）」「長期インターンシップ（D）」）を実施している。
- 留学生が在籍する自国の大学院専攻をメジャーとし、徳島大学の「知的力学システム工学専攻」「物質生命システム工学専攻」「システム創生工学専攻」のいずれかに入学する、いわゆるメジャー・マイナー履修生を基盤とする15の海外大学とのダブル・ディグリー協定のもと、国際連携大学院プログラムを実施し、海外から優秀な留学生を受け入れている。
- 民間企業からの寄附講座「ナノマテリアルテクノロジー（日亜）講座」（社会産業理工学研究部）では、高度情報化社会を支える先端的「ものづくり」技術の開発を理念として、半導体ナノ構造を利用した新機能デバイスの創製を目指しており、次世代の光情報処理システムや未開拓の電磁波であるテラヘルツ波を利用したアプリケーションに貢献する光源デバイス、光検出デバイス、結晶成長からナノ構造の加工、材料・素子特性の計測評価などに関係する大学院修士、博士論文の審査を行っている。
- 学生が科学技術とものづくりに関する自然科学の基礎から応用・社会実装までの知識と技術を実験実習等により修得する際に、補助を行う技術職員組織として総合技術センターを設置している。「分析分野」「ものづくり分野」「計測制御システム分野」「情報システム分野」「管理運営分野」「地域協働分野」の6分野から構成され、教育・研究内容に合致した分野が技術的支援を担うほか、安全・安心で快適な教育・研究環境を整えるための職場の安全管理や、学生への安全教育にも携わっている。
- 香川大学との連携プログラム「四国防災・危機管理プログラム」では、大規模広域災害やグローバル化する危機に対して適切に対応できる専門家の養成を目指し、社会人や大学院生などを対象に、香川大学と徳島大学が共同で実施している。徳島大学では「行政・企業防災・危機管理マネージャー」の養成コースを開設しており、必要な単位を修得した修了生には、災害・危機対応マネー

ジャーの資格が与えられる。毎年、先端技術科学教育部の学生約4名が受講・修了している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 次世代を担う青少年の科学する心を育成するとともに、科学に対する関心を高め、ひいては地域社会の科学技術の振興に貢献することを目的とした「科学体験フェスティバル」を各種団体・企業の協力のもとで開催している。2日間の開催で延べ9千名が参加する大きいイベントであり、出展ブース（約50件）の運営には先端技術科学教育部学生が多数ボランティアとして参加している。